



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・各教科等の学びの基盤となるという面から、教育課程全体における特別活動の役割や機能を明らかにする。
- ・教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を明確にする。

目標の構成の改善

「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手がかりとしながら、資質・能力の三つの柱に沿って整理しました。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

内容の構成の改善

特別活動が学級活動、児童会活動・クラブ活動の各活動及び学校行事から構成されるという大枠の構成に変化はありません。

ここでは、内容項目に変更があった学級活動を取り上げます。

現行学習指導要領

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

新学習指導要領

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
 - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 基本的な生活習慣の形成
 - イ よりよい人間関係の形成
 - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
 - エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
 - イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
 - ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

なお、各活動及び学校行事で育成する資質・能力は、それぞれ別個のものではなく、各活動及び学校行事の特色に応じつつ特別活動全体の目標の実現に向けていくものです。

学習内容の改善・充実

学習内容については、次のような改善・充実が図られています。

○自治的能力・社会に参画する力の育成を重視

特別活動全体を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会に参画する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合っ合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことの重要性を明確にしている。

○学習過程の明確化

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」については、集団としての合意形成を、「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」については、一人一人の意思決定を行うことを示している。

2 小学校特別活動における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現は、各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の学習過程の中で資質・能力を身に付けていく学びを実現することです。

それは、特別活動の各活動・学校行事の内容を深く理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、小学校卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもあります。

〈主体的な学びの視点〉

- ・学級や学校の実態、自己の現状に即して、自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取り組みを振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるような学習過程とする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・学級など同一集団の児童同士の話し合いにとどまるのではなく、異年齢の児童生徒など、多様な他者と対話することができるようにする。

〈深い学びの視点〉

- ・特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えるようにする。
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりしながら、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことができるようにする。

Point 2 学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

今回の改訂では、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれについての学習過程が例示されています。ここでは学級活動の具体的な学習過程を提示します。

	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
事前の活動	<p>問題の発見</p> <p>学級としての課題の選定</p> <p>議題の決定</p> <p>活動計画の作成</p> <p>問題意識を高める</p> <p>児童によって提案されたことについて、教師の適切な指導の下に取り上げる内容を「議題」と言います。</p>	<p>題材の確認</p> <p>課題の設定</p> <p>共通の課題の設定</p> <p>指導計画の作成</p> <p>問題意識を高める</p> <p>教師が活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と言います。</p>
本時の活動	<p>提案理由の理解</p> <p>解決方法等の話し合い</p> <p>合意形成</p> <p>集団討議による合意形成</p>	<p>課題の把握</p> <p>原因の追求</p> <p>解決方法等の話し合い</p> <p>個人目標の意思決定</p> <p>集団思考を生かした個々の意思決定</p>
事後の活動	<p>決めたことの実践</p> <p>振り返り</p> <p>次の課題解決へ</p> <p>児童が自分たちで決めたことについて協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返ることが大切です。</p>	<p>決めたことの実践</p> <p>振り返り</p> <p>次の課題解決へ</p> <p>自分の努力に自信を深めたり、更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めたりすることが大切です。</p>

学級活動(1)は、ここに示す一連の活動を児童が主体的に行うことによって、自発的、自治的な学級の生活づくりが展開されることとなります。学級活動(2)(3)は、学級での話し合いを通して、個人の目標を意思決定し、各自で実践する児童の主体的、実践的な活動を特質としており、これらの特質を踏まえた学習過程にすることが大切です。



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成を目指す資質・能力を示す。
- ・「基礎的・汎用的能力」を育むという**キャリア教育**本来の役割を明確化する。

目標の構成の改善

特別活動の目標は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手がかりとしながら、資質・能力の三つの柱に沿って整理しています。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

思考力・判断力・ 表現力等の育成

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

学びに向かう力・ 人間性等の涵養

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

内容の構成の改善

学級活動では、「(1) 学級や学校の生活づくりへの参画」の指導の充実を図るため、(2) (3) の内容が各項目との関連を配慮して整理しています。

現行学習指導要領

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

特別活動が学級活動、生徒会活動の各活動及び学校行事から構成されるという大枠の構成に変化はありません。

新学習指導要領

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
 - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
 - イ 男女相互の理解と協力
 - ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
 - エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
 - オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館などの活用
 - イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
 - ウ 主体的な進路の選択と将来設計

学習内容の改善・充実

学級活動における内容の改善・充実のポイントは次のとおりです。

○学習過程の明確化

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」については、**集団としての合意形成**を学習過程の中に位置付けている。

また、「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」については、**一人一人の意思決定**を学習過程の中に位置付けている。

2 中学校特別活動における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現とは、一連の学習過程の中で質の高い学びを実現することです。それは、特別活動の内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもあります。

〈主体的な学びの視点〉

- ・学級や学校の実態、自己の現状に即して、自ら課題を見いだして設定したり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取り組みを振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるような学習過程にする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・学級活動や生徒会活動において、課題を解決するために意思決定をしたり、合意形成を図ったりする際に、他者との意見交流をする場面や課題の解決について多面的・多角的な視点で考える場面を設ける。

〈深い学びの視点〉

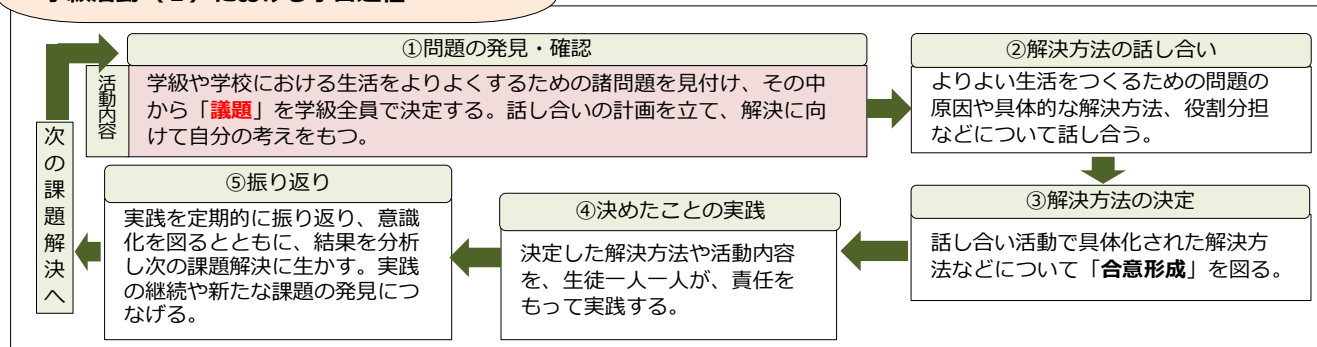
- ・特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えるようにする。
- ・「実践」では、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるようにする。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」とは、各教科等の「見方・考え方」を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることです。

Point 2 学習過程を明確にした実践を行いましょう。

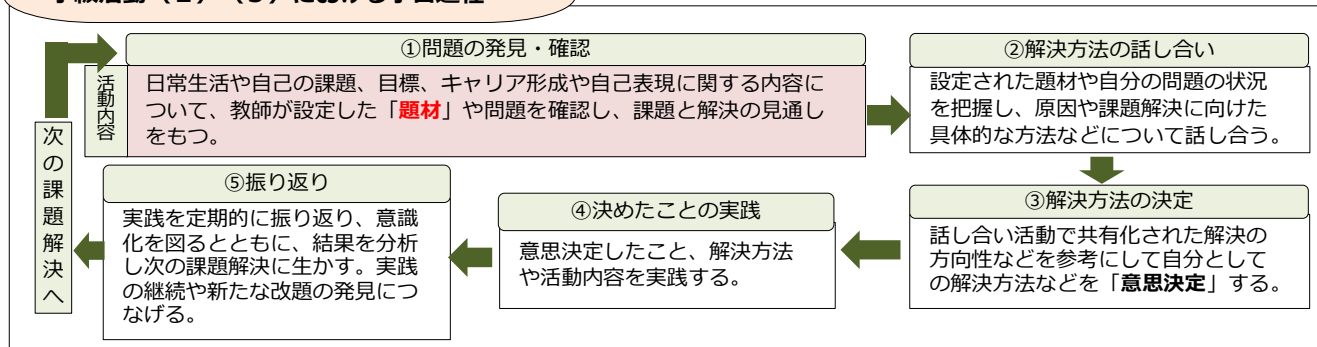
今回の改訂では、学級活動、生徒会活動、学校行事それぞれについての学習過程が例示されています。ここでは学級活動の学習過程を提示します。

学級活動（1）における学習過程



①「問題の発見・確認」の「議題」を設定する視点として、集団生活の進め方に関わる諸問題への対応、生徒会活動や学校行事への参加や協力の在り方などが挙げられます。（前ページ「内容の構成の改善」新学習指導要領の（1）を参照）

学級活動（2）（3）における学習過程



①「問題の発見・確認」の「題材」を設定する視点としては、地域防災や食生活と健康、将来の目標と自分の生き方などが挙げられます。（前ページ「内容の構成の改善」新学習指導要領の（2）（3）を参照）